

第1 XとYの罪責

- 1 共犯関係 7
 - ・共同正犯
- 2 詐欺罪の共同正犯（XとYの行為①） 15
 - (1) 他人の財物
 - (2) 人を欺いて財物を交付させた
 - ・欺く行為
- 3 窃盗罪の共同正犯（XとYの行為①） 10
 - (1) 他人の財物
 - (2) 窃取
 - (3) 故意
 - (4) 不法領得の意思
- 4 1項強盗罪（XとYの行為②） 7
 - ・不成立
- 5 2項強盗罪（XとYの行為②） 15
 - (1) 財産上の利益
 - (2) 暴行
 - (3) 取得
 - (4) 故意

← 本問のような事実関係であれば、共犯関係を最初に論じることが可能です（pp. 237-238）。

※ 詐欺罪の成立を否定した場合の答案構成です。

← 詳しく検討します（pp. 238-240）。

← 可能であれば、一言、触れてください（pp. 240-241）。

← 詳しく検討します（pp. 241-242）。ただし、どの要件で検討するかは、いろいろな理解がありえます。

6 強盗殺人未遂罪（XとYの行為②） 12

- (1) 強盗
- (2) 人を死亡させた
 - ・ 殺意
 - ・ 既遂と未遂の区別

7 罪数 7

← 罪数についても、少し立ち入った検討が必要です（p. 244）。

第2 Zの罪責

1 窃盗罪の幫助犯（Zの行為①） 12

- (1) 幫助行為
- (2) 正犯行為、因果関係
- (3) 故意

2 窃盗罪の幫助犯（Zの行為②） 12

※ 幫助犯の成立を否定した場合の答案構成です。

- (1) 幫助行為
- (2) 正犯行為、因果関係
- (3) 故意

← XとYの行為①に関する検討との関係を意識する必要があります（p. 246）。

3 盗品運搬罪（Zの行為②） 3

- (1) 盗品
- (2) 運搬
- (3) 故意